



TOHOKU
UNIVERSITY

NEWS LETTER



2019.12

Vol.

20

TOHOKU UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY

歯学イノベーション リエゾンセンターのご紹介

東北大学 大学院歯学研究科
歯学イノベーションリエゾンセンター
センター長・教授

江草 宏



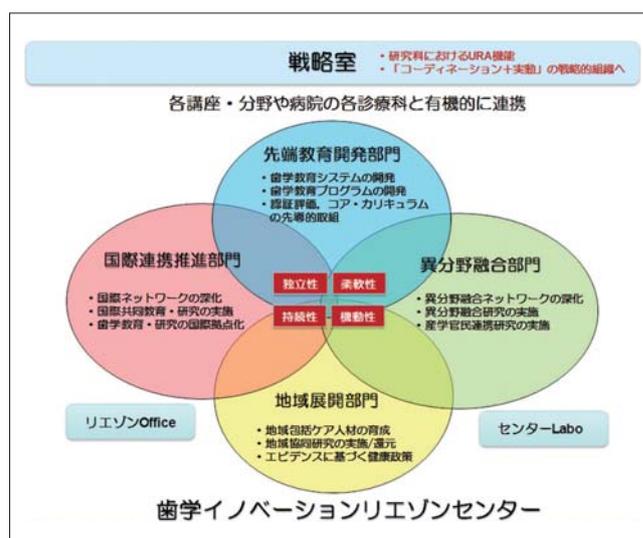
“リエゾン”ってなに？ よく聞かれます。Wikipediaに従うと『フランス語で「関係」「連絡」などの意』だそうです。また、『ビジネス、政治、軍事などにおいて、「取次ぎ係」「連携役」「橋渡し役」「仲介役」「連絡員」のこと』とあります。さて、大学における“リエゾン”とは何なのでしょう。

大学は研究によって世の中を先導する価値観を導き出し、これに基づく教育によってリーダーとなるべく人材を輩出することを一つの使命としています。これまでの先端的な歯科医学には、ある意味、各分野の専門性を縦に深く貫いて突出した成果を得て成り立ってきたイメージがあるかもしれませんが。このアプローチは『限られた分野の歯学』にとって唯一無二の成果を世に示すことができるわけです。

一方、世の中の多様化に伴い、歯学の関連領域はもはや従来の価値観では収まらなくなりました。これは研究だけの話ではなく、教育のシステム化、国際化、産学民連携、国民のニーズにも当てはまることで、我々が学生時代に習った常識ではもはやカバーできないことだらけです。従来の歯学に対する取り組み方では、世の中における歯学の必要性は相対的に薄れるばかりかもしれません。

そこで、本研究科は考えました。学部教育や卒業後研修への教育の接続を各分野がそれぞれ好き勝手に設定するのではなく、東北大学卒業生としてあるべき姿を描き、モデルとなる歯学教育を統括し、各分野と連携(リエゾン)しながら先導する部門があるべきではないかと。国際交流を各分野でばらばらでするよりも、国際的なリーダーシップを見据え、海外学術交流機関を介して戦略的に行う仲介役(リエゾン)があるべきではないかと。また、歯学の発展に必要な異分野との研究融合を橋渡し(リエゾン)する部門があるべきではないかと。さらには、大学は従来の地域歯科保健の推進だけでなく、エビデンスに基づいた健康政策を通じた地域連携のコーディネーション(リエゾン)をすべきではないかと。

このような想いをもって、2011年に歯学イノベーションリエゾンセンターが設置されました。本センターは、『国際連携推進部門(部門長: 洪光 教授)』、『異分野融合部門(部門長: 金高 弘恭 准教授)』、『先端教育開発部門(真柳 弦 助教他)』、『地域展開部門(杉山 賢明 助教他)』からなる分野横断的な組織で、本研究科の提唱する次代の歯学概念「インターフェイス口腔健康科学」に基づき、国際的歯学先端拠点の創生を目指しています(図)。



専門分野を超えて『リーダー育成に興味がある』、『国際的なネットワークを形成したい』、『歯科の枠を超えて面白いことを展開したい』、『地域の活力に研究・政策で貢献したい』等、思い立ったらいつでもご相談ください。我々は、各講座・分野や病院の各診療科と有機的に連携しながら、これからの歯学に求められる新しい価値観を創造・具現化していくことをミッションにしています。

INDEX

- p1 ・巻頭言/江草宏センター長・教授
- p2 ・若手研究者インタビュー/小宮山貴将助教
- ・令和元年度 歯学部
白衣授与式を挙行了しました
- p3 ・新任教授紹介/洪光教授
- ・PRESS RELEASE
- 『口腔内細菌によるアセトアルデヒド産生
その産生機構と代謝的特徴の解明』
- p4 ・各種おしらせ